

# 「そうですか」に関する一考察

## ——語用論的考察と使用実態調査——

大和 啓子 (群馬大学)

### 要 旨

日本語学習者の「そうですか」の不適切な使用が観察されたことをきっかけに、まず日本語教科書における「そうですか」の扱いを確認したのち、「そうですか」から不遜な態度が示されてしまう理由を探った。「そうですか」という形式の疑問型受容文とソ系指示詞の性質から、非当事者性を含意することを指摘し、文脈によっては、不適切な使用となることを説明した。さらに、日本語母語話者と日本語非母語話者の使用の実態について試行的な調査を行ったところ、日本語母語話者は「そうですか」をあまり用いず、両者には使用頻度に差があることが確認された。

キーワード：そうですか、非当事者性、ソ系指示、使用実態、会話データ

### 1.現象の指摘 学習者の不適切な「そうですか」の使用

日本語教育の現場において、以下のような「そうですか」の使用に遭遇することが度々ある。(1)(2)は筆者が担当する日本語会話授業のなかで学習者<sup>(1)</sup>が作成した会話スクリプトである。

#### (1)(上司への依頼への対応場面)

部長：あ、Aさん、ちょっといいかな。

A：はい。何でしょうか。

部長：悪いんだけど、ちょっと急ぎの仕事が入ってね。これ、やってもらえないかな。

A：そうですか...今、明日の午前中の会議に必要な書類をまとめていますが、

その仕事はいつまでに終わらせればいいでしょうか。

#### (2)(客の苦情への対応場面)

客：あの、昨日部屋の机の上においた大切な書類がなくなりました。もしかして昨日掃除する時にゴミとして捨てられたのですか？それはとっても重要な書類ですから本当に困りますよ！  
ちょっと調べて頂けませんか？今ひどくやきもきしてる。

フロント：ああ、そうですか。申し訳ございません。今すぐに調べます。あのう、部屋番号は何番ですか？

学習者からしてみると、(1)では、「そうですか」でまず、相手の発言を受け、自分の状況の説明、相手の依頼への対応と、上司に対し、誠実に対応しようとした発話である。(2)でも同様に相手の発言をまず受け止めて、謝罪のことは、その後の対応について述べるホテルのフロントの従業員として丁寧な対応をした発話である。こうしてスクリプトにして見ると、そうですかの直後に、事情説明やその後の対処法、謝罪などがあり、それほど違和感のないやりとりとして受け取れるかもしれない。

ただし、話し言葉の線条的なやりとりにおいて、相手の依頼や苦情を受ける言葉として、特別な抑揚をつけずに「そうですか」が発された時点で、(1)のような状況であれば、依頼をする上司に対して冷たい部下、(2)の状況であれば、大切な書類をなくしてひどく動揺している客に何の同情もなく機械的に対応するホテルマンというような、発話者の意図しない不遜の態度を表す可能性がある。

一般に了解の応答表現とされる「そうですか」は、なぜこの場面で使うことが不適切になるのか、なぜ(1)(2)のような不遜な態度を表示し得るのか、本稿では、そのメカニズムを明らかにしていきたい。

## 2.先行研究

日本語教育の場面において、「そうですか」は学習初期の極めて早い段階に導入され学習者が産出すべき表現の一つとしてテキストの中に頻繁にあらわれる。たとえば、『みんなの日本語初級Ⅰ』(スリーエーネットワーク)の会話のダイアログだけを取り上げてみても、25課中10課(5、8、9、10、11、12、15、17、19、22課)に「そうですか」という表現が使用されている。教科書の中では、学習者に対し、どのような説明がなされているか、以下にテキストの「そうですか」に関わる説明の抜粋を挙げる。

### (3)『みんなのほんご初級Ⅰ 翻訳・文法解説英語版』L2 Grammar Explanation

This expression is used when the speaker receives new information and shows that he or she understand it.

この傘は あなたのですか。

…いいえ、違います。シュミットさんのです。

そうですか。

Is this umbrella yours?

…No, it's Mr. Schmidt's.

I see.

### (4)“Situational Functional Japanese” Volume1 NOTES L1

“Aizuchi”

Words like はい／ええ／うん Yes,そうですか Really?,なるほど I see as well as grunts or nods(or combinations of all these)are used after almost each phrase or sentence uttered by the main speaker.

When そうですか is said with rising intonation, it can be a simple question, or imply disbelief.

このように、初級総合教科書の1、2課という日本語学習のごく初期の段階で、「そうですか」は、相手の言った情報の受け取りや理解を示す、あいづちとしてうなずきや視線と同様に用いられるといった説明がある。またイントネーションによっては疑問や疑念を含む発話となることも示されている。

また、会話教材や発音教材といった技能別の教科書においては、使用する文脈や感動詞との共起、イントネーション、音の長さなどのバリエーションなどに関わる記述があり、さらに詳細な解説が見られる。

### (5)『聞く・考える・話す 留学生のための初級にほんご会話』第1課

・「あ、そうですか」

新しい情報を聞いて、わかったときに使います。この「か」は質問ではなく納得を示すので、文末のイントネーションは上がりません。イントネーションが上がる(↑)と、わたしはそう思わないという意味になります。

この初級学習者を対象とした会話教科書では、「あ、そうですか」と「あ」を伴う形で項目として示されている。学習者の目にする記述は、(5)のみだが、同教科書の教師用書「聞く・考える・話す 留学生のための初級にほんご会話 教師用」では、各課学習項目として「そうですか」が様々な文脈における了解を示すことが示されている(6)。

### (6)『聞く・考える・話す 留学生のための初級にほんご会話 教師用』

・情報を得た時の了解を示すあいづち「あ、そうですか／そうですか」(第1課自己紹介)

・わからないといわれた時に応答する「そうですか」(第3課場所を聞く)

※わからないと言われたときに、それを了解したことを示す表現

・断られたとき了解を示す「そうですか」(第7課 誘う・断る)

また、発音練習教材でも、イントネーションとの関連から「そうですか」についての解説がなされている(7)。

(7)『コミュニケーションのための日本語発音レッスン』第9課イントネーション

そうですか

1) 了解：下降調

2) 喜び：下降調＋声の幅が広い

(喜び・相手に対する共感・配慮が大きいほど声の長さが長くなる)

3) 疑問：上昇調

4) ためらい：上昇調＋声の長さが長い

5) 意外・驚き：下降調＋声の幅が広い

(疑念を強調すると、文末イントネーションが上昇するため、下降上昇調も可)

(6)(7)のように一部の技能別教科書には、下降調の「そうですか」が了解を示すこと以外にも、伴うイントネーションや声の調子などによって疑問や意外などがあらわされることについての記述もみられる。

上昇調であれば、疑問やためらいがあらわされるので、文脈によっては、不遜な態度が示されることもあるかもしれない。しかし、下降調の「そうですか」について不遜な態度を示すことについて言及されているものは管見の限り見られなかった。

### 3.本稿で解決すべき課題と扱う対象

日本語教科書では、「そうですか」は、基本的には了解の表現として学習初期から頻繁に扱われている。しかし、下降調の「そうですか」を了解と理解したうえで使用しても、「そうですか」に不適切な使用が生じてしまう現状がある。そこで、本稿では、「そうですか」という語句の形式自体が持つ特徴について先行研究の知見をもとに分析する。分析の方法としては、まず疑問文と同じ最後に「か」という助詞をとる疑問型情報受容文としての特徴、続いて「そう」に含まれるソ系指示詞の特徴を持つについて先行研究に沿って明らかにし、それらが、なぜ「そうですか」という形式の使用が発話者態度を示し得るのかについて考察する。

また、「そうですか」という表現が実際のコミュニケーションの場において、日本語母語話者および非母語話者によってどのように使われているのか、「そうですか」使用の実態について、会話コーパス分析の使用実態を探る。

## 4.「そうですか」の特徴

### 4.1 疑問型情報受容文の特徴

本節では、「そうですか」という形式自体が示すことについて考えていきたい。

森山(1992)では、疑問文と同じように文末に「か」を伴う形式をとりながら情報の受け入れを表す文を疑問型情報受容文とする。疑問文は、矛盾対立する内容を選択関係として付加することが可能である(8)が、疑問型情報受容文は、それができない(9)。そして、原則として下降イントネーションとなる。

(8) a. 彼は1年生ですか

b. 彼は1年生ですか、1年生ではありませんか。

(9) a. あ、もう10時か

b. #もう10時か、10時ではないか

さらに、疑問型情報受容文には新情報に対する推測的認識とのギャップを表す発見用法(10)と新情報を他から受ける伝達用法(11)がある。

(10) (学生のように見えていた人が「先生」と呼ばれるのを聞いて)

彼は先生か。

(11) A 黒幕は彼だ。

B 黒幕は彼か。

(11)のような場合、「B」が当該情報に賛成しているかどうか、抑揚によっては表示しないで済むこともある。これは形式自体は当該情報を受容するだけで、それまでに話し手に当該情報がなかったことを表示するにすぎないからである。受容する方向にあるかどうかは、抑揚や共起応答詞によって表示されることになる。」とされる。

上記、森山の論に従うと、本稿で対象とする日本語教科書に頻出する下降調の「そうですか」はこの疑問型情報受容文に相当する。そして、他者の発言を受けて発される「そうですか」は、疑問型受容文の「伝達」の用法にあたる。したがって、「そうですか」は、他者の発話によって「そう」の指示する当該情報を新たに得たことを表示する。

しかし、「そうですか」が単に新情報を得たと表示したことからのみでは、不遜な態度ととらえられる可能性があることについての十分には説明ができない。次節では「そう」部分について考える。

#### 4.2 指示詞「そう」の特徴

「そうですか」は通常、前の発話を受けてあらわれる表現である<sup>(2)</sup>。「そう」は前の発話を照応するものであり、「ソ」系指示詞の文脈指示の特徴を持つと考えられるのではないだろうか。

先行研究では、ソ系指示詞についてはすでに多くの研究の蓄積がある。堀口(1978)では、ソは、対象が自分にとって関わり弱いものを客観的に平静に示すとされ、黒田(1979)のア系、コ系は直接体験的知識を示すが、ソ系は概念的な知識を示すとされる。金水・田窪(1990)でも(12)のような例を挙げ、「ソ」系は直接経験的領域ではないもの、すなわち間接経験的領域を示し、談話において新規に導入された知識は、話し手の実際の経験であるかないに関わらず、経験的スペースとは区別される。

(12) わたしは、町はずれの古ぼけたビジネスホテルに宿をとり、三日間 {そこ/\*あそこ} に滞在した。

(金水・田窪 1990:137)

この文脈指示「ソ」の特徴に関して、相手の提示した情報を「ソ」で指し示す「そう」応答詞について考えてみる。「そう」による応答も「ソ」と同じ、相手の発言を言語的な概念によって構築される間接的領域で認識しつつも、「そう」の指し示す内容を話し手の経験や現場の事物の知覚と結びつける直接領域にはとりこまないことを示す。そのため、「そう」を用いると堀口が指摘したように対象を自己に関わり弱く客観的に平静に示すことができる。具体的には以下のような例がある。

(13) A : ちょっと買い物に行ってくるね

B : そう

Bの「そう」による応答は、Aからの情報を受けたが、その情報に対して、興味関心が薄いことが示

されている。

#### 4.3 「そうですか」の使用から不遜な態度が生じる理由

疑問型情報受容文の特徴とソ系指示詞の特徴とを合わせて考えると、「そうですか」という応答は、相手から示された情報を新規情報「そう」として認識しながら、自分の中に直接経験的には取り込まず、平静に指し示し、さらに、それを受け入れるかどうかの方向性も示さないとすることによって、「その情報を自分とは関わりの薄いものとして受けとめた」ことのみを示すことになる。

そのため、「そうですか」が発話される際、イントネーションやモダリティ要素、感動詞によって、その受け止めの方向性を示さないと、自己に関わり弱く平静に受けとめたことだけを示すことになる。自己に関わり弱いことを感情的にならずに客観的に、つまり、自分はその情報に関する当事者ではないと示すことにつながる。それにより、「そうですか」という応答には、非当事者性が含意されると考えることができる。

次の例は、非当事者性が含意することから、その使用が不自然になる例である。

(14) A : 結婚してください。

B : はい。

A : #そうですか。

たとえば、プロポーズをした者が相手からの受諾の返事を「そうですか」で受けることは不自然である。これは、プロポーズをしたものが、まさに当事者でありながら、「そうですか」が非当事者性を示すことに矛盾が生じるためである。

ただし、このときプロポーズを断られた場合には、この非当事者性を利用して、「そうですか」によって平静にふるまうことはできる。

(15) A : 結婚してください。

B : ごめんなさい。

A : そうですか。

これは、当事者でありながら、故意に非当事者性を示すことで相手の断りへの負担を補償し、両者のフェイスバランスの調整を行う配慮表現として「そうですか」を儀礼的に用いているとも考えられる。

さて、再び冒頭の学習者の不適切な使用の例に戻ると、

(16)(1)再掲(上司への依頼への対応場面)

部長 : あ、Aさん、ちょっといいかな。

A : はい。何でしょうか。

部長 : 悪いんだけど、ちょっと急ぎの仕事が入ってね。これ、やってもらえないかな。

A : そうですか...今、明日の午前中の会議に必要な書類をまとめていますが。

その仕事はいつまでに終わらせればいいでしょうか。

(17)(2)再掲(客の苦情への対応場面)

客 : あの、昨日部屋の机の上においた大切な書類がなくなりました。もしかして昨日掃除する時にゴミとして捨てられたのですか？それはとっても重要な書類ですから本当に困りますよ！ちょっと調べて頂けませんか？今ひどくやきもきしてる。

フロント : ああ、そうですか。申し訳ございません。今すぐに調べます。あ、う、部屋番号は何番ですか？

(16)では、上司からの仕事の依頼という文脈で、部下である A は依頼を受ける立場にある。また(17)でもホテルのフロントの従業員として客からの苦情を受け止め改善する立場にある。つまり、A もフロントも当事者としての振る舞いが強く期待されているのである。その当事者として期待されているものが、「そうですか」によって非当事者性を示しながら相手の発言を受けたことにより、不遜な態度が示されたといえる。

このように、当事者であるべき文脈で、適切な抑揚や感動詞を伴わず「そうですか」を使用すると、その非当事者性によって、無責任さであったり、他人事のような感じがあらわされたりしてしまうことになる。

以上、非母語話者の不適切な使用をきっかけに、「そうですか」から不遜な態度があらわされてしまうメカニズムについて考察した。

## 5. 「そうですか」使用の実態

### 5.1 分析資料

ここまで、学習者の「そうですか」使用の不自然さを手掛かりに考察をすすめてきたが、実際のコミュニケーションにおいて、「そうですか」は、どのように使用されているのかを明らかにする必要がある。そこで、日本語母語話者、非母語話者の「そうですか」という表現の使用について、2 者間の対面会話データ (文字資料)<sup>(3)</sup>を用い分析した。会話の内容は、結婚、美容整形、就職のいずれかのテーマ<sup>(4)</sup>に基づいて、互いの意見を述べあうというもので、会話参加者は、10 代後半～30 代前半の日本語、韓国語、中国語を母語する話者である。全 30 会話データのうち、2 者がともに 1 回以上敬体を使用した 18 会話を分析の対象とした。なお、対象としなかった残りの 12 会話のデータには「そうですか」の使用はなかった。なお、1 データの長さは各 5 分程度、18 データで合計約 120 分程度である。

### 5.2 分析結果

まず、「そうですか」<sup>(5)</sup>の使用回数と使用回数について、表 1 のような結果が得られた。

＜表 1＞ 「そうですか」の使用回数および使用人数

	そうですか 使用人数(人)	そうですか 使用回数(回)
日本語母語話者(20 人)	1	3
日本語非母語話者(16 人)	8	16

18 データ中、日本語ペアの会話が 2 データ含まれていたため、日本語母語話者は 20 名、非母語話者は 18 名分のデータとなった。18 会話データ(約 90 分)中、日本語母語話者「そうですか」を使用したのはわずか 1 人の 3 回のみであったのに対し、日本語非母語話者は、16 人中 8 人で合計 15 回の使用が見られた。

また、その使用について、共起する感動詞や、発話の続行の有無について観察した。

発話の続行の有無とは、(18)のように そうですか+共起する感動詞等(実線下線部)を発話したあとに、破線下線部分のように自分で話を続ける場合、発話の続行ありとした。

(18) 11C はい、そうです、でもなんで子供がほしいの？

12J 子供がいなくて寂しいから

13C へえー、そうですか、えっでも友達いう友達がいたら寂しくないじゃん

また、(19)のように、そうですか+共起する感動詞等のあとは、相手の話の聞き手となるものを発話の続行なしとした。

(19) 59C 子供は別に、うんあって、うん、あってもなくていいと思います

60J えーそうですか

61C はい、うんそれはーうん私はとてもーうん、わがままな人です//けど

62J/そうですね

63C {笑い}

64J そう思います

65C うんでも、うん、それは私的に結婚しなくてもいいと思ってます

66J そうですか

67C はい

68J 強い方ですね

共起する表現形式については、「そうですか」が感動詞などを伴わずに単独で用いられたものが6例あった。「そうですか」の前に「あ/あー」を伴ったものが6例、「うん/うーん」2例、「へー/えー」2例であった。また、「そうですか」の後ろに「うーん」(2例)「わかりました」(1例)を伴って用いられているものもあった。

そして、共起する表現を含んだ「そうですか」の後に発話者が話を続けたものは8例、その後相手の話の聞き手へととなったのは、11例であった。

<表2> 「そうですか」と共起する感動詞等と後続発話の有無

	出現数	そうですか発話者の 発話続行	
		あり	なし
そうですか(単独)	6	1	5
あ/あーそうですか	6	2	4
へー/えー そうですか	2	1	0
うん/うーん そうですか	2	2	0
そうですか うーん	1	1	0
そうですか うん	1	0	1
うん そうですか わかりました	1	0	1
合計	19	8	11

日本語母語話者の唯一の使用者の3例については、「そうですか」(2例)、「えーそうですか」(1例)であり、いずれも発話を続行することはなかった。また、直感的な感想に過ぎないが、この日本語母語話者によって「そうですか」が使用されたデータは、他のデータが、雑談風におだやかに意見を述べ合うものが多い中で、互いに討論するといった対立関係が顕在化されているような印象をもった。この点については、今後さらに母語話者の「そうですか」使用場面を分析していく明らかにしていく必要がある。

ごく小規模なデータの表面的な分析ではあるが、5分程度の会話の中で、非母語話者の半数近くに使用が見られたのに対し、日本語話者にはほとんど使用が見られないという事が観察された。母語話者

と非母語話者の「そうですか」の使用頻度には差がある傾向が見られたといえるだろう。

ただし、母語話者の使用例が少なすぎるため、今後、データをかえて日本語母語話者の「そうですか」の頻度、使用方法をより詳しく観察していかなければならない。

## 6.まとめと今後の課題

以上、本稿ではまず、「そうですか」の形式的な特徴、疑問型受容文とソ系指示詞の性質から、非当事者性を含意することを指摘し、そのような「そうですか」を使用することによって、不遜な態度が示されてしまうことを説明した。

しかし、本稿では、「そうですか」の不適切さの理由を語句の形式に求めたが、「そうですか」が発話行為として不適切であったという可能性も考えられる。森山(1989)では先行文の内容に対する態度表明をする際に“関係修復優先の原則”があると指摘している。関係修復優先の原則とは、承諾系の応答において、応答者に利益があることの命令では、ハイ、やワカリマシタではなく、アリガトウゴザイマスでなければならず(20)、拒絶の場合には、上下関係がある場合には、まず謝らなければいけない(21)というものである。

(20)A どうぞ、お茶を飲んでおくつろぎください。

B ??わかりました。／よし。Cf.ありがとう

(21)A これをやりなさい

B ??いやです／できません。Cf.すみません

この点については、さらにさまざまな状況における「そうですか」の実際の使用を観察、あるいは不使用についての考察を行い、明らかにしなければならない。

また、使用の実態については、日本語母語話者と非母語話者の「そうですか」使用頻度に差が見られる傾向にあることを会話コーパスから確認した。今回は小規模なデータの表面的な分析にとどまったが、今後は、レベルごとの日本語学習者の会話(OPI インタビュー場面)や、日本語母語話者の日常会話など、性格の異なる複数のデータの分析から、「そうですか」の実態を把握していきたいと考える。

## 注

(1) 学習者は(1)(2)ともに、上級クラスの中国人留学生。

(2) ときに相手の沈黙をスピーチアクトととらえ、そこに反応して了解の「そう」が発されることもあることが定延(2002)で指摘されている。

(3) 筑波大学人文社会科学部研究科砂川有里子教授の講義「日本語構造論 01」の受講生により採取され文字化されたもので同研究室のメンバーで共有される非公開会話コーパスの一部。

(4) 会話のテーマはそれぞれ次のように設定されている。

・結婚：結婚は必ずしなければならないか

・美容整形：美容整形の是非について

・就職：大企業で働くのと小さな会社でやりがいのある仕事をするのと、どちらがよいか

(5) 「そーですか」「そーすか」「そっすか」などの類似表現も対象としたが該当はなかった。

## 参考文献

柏崎雅世(1995)『『そう』で導かれモダリティーを伴った応答文について』『日本語の研究と教育』(窪田富男



教授退官記念論文集)専門教育出版

- 金水敏・田窪行則(1992)「日本語指示詞研究史から／へ」『日本語研究資料集 指示詞』ひつじ書房
- 黒田成幸 (1979)「(コ)・ソ・アについて」『林栄一教授還暦記念論文集・英語と日本語と』くろしお出版
- 森山卓郎 (1989)「応答と談話管理システム」『阪大日本語研究』1
- \_\_\_\_\_ (1992)「疑問型情報受容文をめぐって」『語文』59
- 定延利之編(2002)『「うん」と『そう』に意味はあるか』『「うん」と「そう」の言語学』ひつじ書房
- 堀口和吉 (1978a)「指示語『コ・ソ・ア』考」『論集日本文学・日本語 5 現代』角川書店
- \_\_\_\_\_ (1978b)「指示語の表現性」『日本語・日本文化』8 大阪外国語大学
- Brown, P. and Levinson, S.C. (1987) *Politeness: Some Universals in Language Usage* Cambridge: Cambridge University Press

(大和啓子、群馬大学国際・教育研究センター講師、yamato@gunma-u.ac.jp)